

立教大学学術推進特別重点資金（立教SFR）
プロジェクト研究（単独プロジェクト研究）
2011年度研究【経過・成果】報告書

プロジェクト主体研究科等名	キリスト教学研究科		
研究代表者	所属・職名	氏名	
	キリスト教学研究科特任教授	池住義憲	印
研究課題	宗教間・文化間『対話』を通じたアジアの共存と平和～～国連プロジェクト『文明の同盟』のアジアにおける実践と今後		
研究組織	所属大学名等・職名	氏名	
	キリスト教学研究科・特任教授 キリスト教学研究科・教授 キリスト教学研究科・准教授 アジア保健研修所・研修/国際部門主任 日本国際ボランティアセンター・イラク事業現地調整員 非暴力平和隊・国際理事	池住 義憲 西原 廉太 久保田 浩 宇井志緒利 原 文次郎 阿木 幸男	
研究期間	2011年度 ～ 2012年度		
研究経費	2011年度	2012年度	総計
	2,400千円	3,000千円	5,400千円

研究の概要 (200～300字で記入、図・グラフ等使用しないこと)

本研究はアジアの民衆ならびにアジアの NGO や教育研究機関の実践に焦点を当て、フィリピン、カンボジア、イラク、スリランカのアジア4カ国において実践されている「宗教間・文明間衝突や対立、葛藤の克服」、「相互の寛容と尊重の促進」、「共存関係の構築」の取り組み4事例を選定して日本ならびにアジアの NGO と協力して分析・検証し、個別のおよび普遍的理念・原則・方法論等を具体的提言としてまとめる。

軍事的手段でなく徹底した「対話」を通して異なる宗教・文化・民族間での協力精神をいかに育むことができるか、アジアにおける今後の更なる「共存」と「平和」づくりをどのように進めていくか、今後日本が果すべき役割はなにか、を明らかにすることを目的としている。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入)

[平和づくり] [アジア] [対話]

研究【経過・成果】の概要 (図・グラフ等使用しないこと)

2011年度は、学内研究分担者と学外 NGO (日本国際ボランティアセンター、アジア保健研修所、非暴力平和隊・日本) ならびにそれぞれの海外カウンターパート NGO 等関係者と協働して、フィリピン、カンボジア、スリランカ、イラク 4 カ国での事例研究調査を行った。訪問・聴き取りなどを通して、非暴力・対話を通じた地域での草の根平和づくりの過程を掘り起こし、記録・文字化する作業を進めた。

現実(コンテクスト)の実践事例研究とともに、平和理論、Shared Security 概念、歴史に見る「宗教間対話・協力」言説などの理論(テキスト)に関して、学内研究分担者で以下のテーマについて研究・執筆作業を進めている。

1) 「Shared Security 概念をめぐって—その課題と可能性」

WCRP (世界宗教者平和会議) においてこの間議論されている"Shared Security"概念の内容を精査し、その課題及び可能性について検討を加える。

2) 「歴史に見る『宗教間対話・協力』言説の諸問題」

1893年の万国宗教会議(The World's Parliament of Religions)から1945年に至るまで、西洋において「諸宗教」間の「対話・協力」がいかなる主体によって、いかなる観点から、いかなる言説を用いて語られてきたか、そしてその西洋中心主義的な言説が1945年以降どのような否定的な影響を現在に至るまで及ぼし続けているかを検討する。特に現在まで活動を続けている世界宗教者平和会議(WCRP)や国際自由宗教連盟(IARF)に着目し、現在の「宗教間対話・協力」言説の諸問題を解明する糸口を探る。

3) ガルトウングの「平和理論」、非暴力行動としての「市民的抵抗」

ガルトウングの平和理論のうち特に平和の文化への宗教の貢献を精査し、また、ガンディやキングなどの非暴力抵抗の思想と実践を振り返っていかなる条件の下で市民的抵抗が有効な手段たり得るかについて検討する。

4) その他 (国連プロジェクト『文明の同盟』および国連『人間の安全保障』の概念・歴史的経緯、など)

フィリピン、カンボジア、スリランカ、イラク 4 カ国の事例研究調査の経過と調査内容概要は以下のとおり。

【フィリピン事例研究】

現在も武力紛争が続いているフィリピン・ミンダナオ島ムスリム自治区のバシラン州において、現地 NGO 「Nagdilaab」が総合開発活動をすすめている地域を事例として、長年すすめてきた地域開発活動の影響やインパクトを明らかにする調査研究を行った。また、同地域の村人や関係者自身が、自分たちの地域の変化や平和づくりへの取り組みについて振り返り、経験とそこから得られた知見を記録した。

本年度は、ほぼ当初計画通り、以下の活動を行ったが、バシラン州は引き続き国軍とモロイスラム解放戦線との衝突や武装犯罪組織の横行により常時治安が不安定であり、2011年10月には両軍間の激しい武力衝突があったため、予定の調査活動はすすめられなかった。当初の計画では、昨年度フォーカスグループディスカッション(Focus Group Discussion, FGD)を行った3村で主要関係者への個別インタビュー(Key Informant Interview, KII)を行う予定であった。しかし、治安の悪さによる移動の制限、調査チームおよび対象地域の住民の多忙さなどにより、調査のプロセスを再考して変更し、Boheyawas村における個別インタビューは行わず、以下の活動を行なった。

- ① FGDのまとめと個別インタビュー対象者の選考(2011年7月)
- ② 主要関係者への個別インタビューの実施(2011年8~9月)
- ③ 事例のまとめ方とアウトラインガイドの作成(2011年11月~12月)
- ④ 事例研究原稿素案の作成(2012年1月~3月)
- ⑤ 調査対象地域の人たちへの調査結果の共有とコメント収集(2012年3月)

【カンボジア事例研究】

元ポル・ポト派支配地域で最後の戦闘地域となったシェムリエップ州北部において、住民自助グループが中心となった地域づくり・平和づくりの具体的プロセスを明らかにする調査研究活動を行った。平和づくりのプロセスにおける現地 NGO の関わり方・役割と理念・原則、ならびに現地の紛争解決委員会(Conflict

研究【経過・成果】の概要 つづき

Resolution Committee、CRC)の働きと地域に及ぼした影響を明らかにすることが目的であった。また、同地域の村人や関係者自身が、自分たちの地域の変化や平和づくりへの取り組みについて振り返り、経験とそこから得られた知見を記録した。

本年度は、前半に調査で中核となっていた職員の団体内での役割異動があり、追加調査の予定が遅れた。また、2011年10月には調査地のシエムリエップ州も大洪水に見舞われ、その救援活動のため現地NGO「PADEK」が調査活動を一時中断せねばならなかった。しかしながら、プロセスを重視し、調査に携わる職員の能力強化を行いながら、調査対象地域の関係者との十分な理解と協力を得て、調査は以下のように進められた。

- ① 個別インタビューデータのまとめと追加調査対象選考(2011年7～8月)
- ② 具体事例記録のための追加調査(2011年9月～12月)
- ③ 上記個別インタビュー結果と6事例のまとめと英訳化(2012年1～2月)
- ④ 調査対象地域の人たちとの調査結果の共有とコメント収集(2012年3月)
- ⑤ 事例研究アウトラインガイド作成と原稿作成(2012年3月)

【イラク事例研究】

イラク中北部のキルクーク県ラパリーン地区地域委員会(Community Committee、CC)による「地域の平和づくり」ならびに同地区において開催された「子どもたちとつくる地域の平和」ワークショップなど、地域開発活動とおした平和づくりの取り組みを調査(聴き取り、ワークショップおよび会合開催、記録、分析検討など)した。

- ① 「子どもたちとつくる地域の平和」夏季ワークショップ(2011年7～8月)
- ② 「子どもたちとつくる地域の平和」ワークショップ評価(2011年9～12月)
- ③ ラパリーン地区地域委員会の活動状況聴き取り(2011年12月)
- ④ 「子どもたちとつくる地域の平和」冬季ワークショップ(2012年2～3月)

【スリランカ事例研究】

スリランカ事例研究は、当初、トリンコマレーでの非暴力による民族紛争解決へむけて、地域住民とともに「非暴力平和隊」(Non-Violence Peace、NP)がどのように非暴力解決を模索して取り組んでいるかを調査する予定であった。しかしその後、NPが諸事情からスリランカでの活動を閉鎖・撤退することを余儀なくさせられたため、変更を余儀なくさせられた。

スリランカ内戦に関する経緯(1948～2011年)と現況、ならびに非暴力平和隊の理念・考え方とスリランカでの活動(2003～2011年)に関する資料は収集済みであるので、今後(2012年度)は、非暴力平和隊のスリランカでの活動閉鎖・撤退に関する状況把握と客観的検証・分析作業を行うこととした。

こうした状況を受けて本研究調査では、平和構築に関わっている他のスリランカNGOを訪問し、スリランカの最新状況把握とともにその取り組みなどの聴き取り調査を追加して行った。2011年8月、学内研究分担者がスリランカ出張で訪問した下記二つのNGOの概要とそれぞれの平和構築への取り組み内容を兆歳した。

1) 現地NGO「NAFSO」(National Fisheries Solidarity)

1997年に設立されたNGOで、スリランカ全国漁民ならびにプランテーションワーカーの生活と権利を守るため連帯と協働に力点を置いて活動している。スリランカの「民族的調和と平和」と「平和と持続可能な発展に関する人々と人々の対話」(People to People Dialogue on Peace & Sustainable Development Program、PPD)があり、これに注目し、その内容とプロセスを聴き取った。

2) HDO (Human Development Organization)

1990年にスリランカ大学生とティ・プランテーションで働く活動家有志によって設立されたNGO。英国植民地時代から困難な状況に押しやられ続けているティ・プランテーション労働者(タミル人)に焦点を当てて、スリランカ中部のキャンディ、ケガレ、ネワラエリヤ、アンパラ地区で活動している。プランテーション労働者と国内避難民の人権ならびに「開発への権利」回復活動などを聴き取った。

※ この(様式2)に記入の【経過・成果】の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4縦型横書き1枚・自由様式)を添付すること。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多量の場合は主要なものを抜粋してください。)

- ① 雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ② 図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③ シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④ その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

2011年度の研究発表実績はなし。研究発表はいずれも2012年度末(2013年3月末)までに研究代表者が中心となって必要な作業を行なう予定である。

- ① 雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
 - a) 『キリスト教学』誌 (立教大学キリスト教学会発行、2013年)
 - b) 『平和研究』誌 (日本平和学会発行、2013年)
- ③ シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
 - 名称: 国際シンポジウム『宗教間・文化間対話を通じたアジアの共存と平和』
 - 日時: 2013年3月9日(土)～10日(日)
 - 場所: 立教大学池袋キャンパス太刀川記念館3階ホール (予定)
- ④ その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)
 - a) 立教大学キリスト教学会 (2013年)
 - b) 日本平和学会春季研究大会 (2013年)
 - c) 日本語版報告書 (400部、2013年)
 - d) 英語版報告書 (100部、2013年)

以上